



創立 55 周年記念

第 5 回

日本オーディオ協会賞 贈呈式

平成 20 年 1 月 16 日

コートヤード・マリオット
銀座東武ホテル「龍田の間」



社団法人 日本オーディオ協会

〒104-0045 東京都中央区築地 2-8-9 レコード会館 6 階

電話 03-3546-1206 FAX03-3546-1207

メール jas@jas-audio.or.jp

URL <http://www.jas-audio.or.jp>



ごあいさつ

社団法人 日本オーディオ協会
会長 鹿井 信雄

日本オーディオ協会 Kanoi_01.jpg は戦後の混乱が残る 1952 年(昭和 27 年)に設立され 55 年が経過しました。

LP レコードの導入期とラジオによる立体放送の揺籃期に発足し、会員各位の情熱とご尽力、加えて関係各位のご支援に支えられ、ハイフィデリティ、ステレオフォニック、デジタルオーディオ、オーディオ・ビジュアルと変化するオーディオの普及及び啓発活動に取り組んで参りました。

日本オーディオ協会賞は創立 35 周年の折に制定され、「技術進展の早い電子機器においては、5 年毎に音響のトレンドセット技術の開発或いは実用化に大きな貢献をした個人、または組織の顕彰が妥当である」として行われて参りました。なお、各 10 年毎には協会活動に貢献した方々に日本オーディオ協会功績賞を贈呈していますが 55 周年目には該当いたしません。

今回の日本オーディオ協会賞の選定にあたりましては、ユーザーの立場で享受できる開発、標準化、事業化の成果を評価させていただきました。受賞者の皆様のご業績がこれまでのオーディオとオーディオ・ビジュアルの発展を支え、また今後を拓く礎となることは言うまでもありません。

選考にあたって

日本オーディオ協会表彰委員会において 1986 年制定の選考基準に基づき、前回 2001 年の第 4 回表彰以降 5 年間のオーディオ・ビジュアル関連の動きを中心に審議を重ね選考いたしました。

近年の音声圧縮技術と新しいメモリーを応用した音楽聴取の普及と、デジタル放送方式の標準化にともなうデジタル音声受聴の機会増大が表彰対象として挙げられ、音声圧縮技術開発と標準化に貢献した多くの人達の代表として守谷健弘氏と、デジタル放送の音声方式標準化に貢献した多くの人達の代表として浦野丈治氏が選ばれました。

守谷氏は MPEG-4 やロスレス符号化など応用範囲が広く高品位化も可能な音声圧縮方式の国際標準化に貢献されました。浦野氏は放送応用を考慮した符号化パラメーターによる AAC 方式の検証を進め我が国のデジタル放送の規格制定に貢献されました。

また組織としては、急速に発展したデジタル音楽プレーヤーの基幹部品を多くの日本企業が供給し普及を支える中で、電気音響交換部品を供給しデジタル音楽プレーヤーの世界的な普及に貢献するフォスター電機株式会社殿が選ばれました。

音響技術、音響文化の発展に永年にわたり貢献した個人として、発売後 25 年を経過しデジタル音楽文化を先導したコンパクトディスク(CD)の国際的な事業化に貢献し、音楽・音響文化振興でも活躍されている大賀典雄氏と、磁気録音技術開発と標準化、ならびに業務用パーソナルレコーディング分野で永年にわたり貢献された阿部美春氏が選ばれました。

日本オーディオ協会表彰委員会